

令和7年度 図画工作科 授業改善推進プラン

大田区立大森東小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・1年間を通して、テーマを意識しながら作品づくりをすることができた。
- ・友達の作品から、よさや工夫したところを見付け、言葉に表すことができた。

(2) 課題

- ・作品づくりの際、集中が長く続かない。
- ・活動に対して意欲的に取り組み始めるが、より良くしようと工夫する意欲が低い。
- ・一度学習した道具の使い方、技法などまだ十分に身に付いていないことがある。

2 授業の分析

① 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・クレパスの塗り方を工夫し、混色やぼかしなどを表現に合わせて適切に使い分けることができた。 ・のりを適量につけたり、材料に応じて接着剤を使い分けたりすることができた。 ・ホチキスを適切に使うことができない児童がいた。	・テーマから色や形を意識して、表したいことや表し方を考え、楽しく発想や構想をすることができた。 ・自分で新しいことや好きなことなどを想像することが難しい児童もいた。	・楽しく表現したり、鑑賞したりする活動に取り組み、作り出す喜びを味わうことができた。 ・表現することに自信が無い児童もいた。

② 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・4年生は水彩絵の具の扱いに慣れ、様々な道具を用いて、新たな表現方法を試して見つけることができた。 ・3年生は水彩絵の具の扱いに関して、水を生かすことや混色をすることに課題がある。	・鑑賞で、友達の作品からよさを感じ取り、感じたことを発表することができた。 ・手を動かすことはできるが、豊かに発想し、作品に自分の思いをこめることに課題がある児童も名いる。	・作品づくりや片付けの合間に集中力が切れてしまう児童がいる。 ・完成までの見通しをもっておらず、時間内に作品が完成できない児童もいた。

③ 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・墨の特徴や光と影のでき方を理解し、表現に生かすことができた。 ・既習の材料や道具を効果的に使い、ビー玉が転がるコースをつくることができた。 ・電動糸鋸を安全に使うことと一人で刃の付け替えをすることに課題がある。	・自分の表したいことに合わせて材料や表現方法を工夫することができた。 ・自分の表したいことが見つけられない児童と、自分の中の作りたいイメージはあるが、思い通りに表現することが難しい児童もいた。	・友達と話し合いながら、主体的に図工の活動に取り組むことができた。 ・完成までの見通しをもっておらず、時間内に作品が完成できない児童もいた。 ・活動は意欲的に取り組んでいるが集中して取り組むことに課題がある。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・手や体全体の感覚を働かせながら、活動ができる題材を多く取り入れる。 ・はさみやホチキス、カッターなどの安全で正しい使い方を繰り返し指導し、正しく使うことができるようにする。	・好きなものや、気持ち、考えていることを教師が聞き出し、一度言葉に出させることでイメージできるようにする。 ・想像を広げるための、考える時間を設ける。	・作品や活動を積極的に褒め、表現活動を楽しめるように声掛けをし、自信につなげる。

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・水彩絵の具に胡粉やボンドを混ぜたり、土絵の具を活用したり、クレパスと組み合わせたりするなど、表現の幅が広がる題材を取り入れる。 ・水彩絵の具の基本的な使い方について再度確認できるような題材を設定する。 ・立体作品の制作では、粘土、紙、木、金属など、様々な材料に触れることを通して用具の使い方を確認する。	・友達の作品から感じたことを発表する際、鑑賞の視点を具体的に示すことで、発表できるように指導する。 ・導入で、テーマから想像したことを教師が聞き出し、板書する。また、机間指導で児童から思いを聞き出すことで、児童が想像を豊かに膨らませられるようにする。 ・学級の実態に応じて参考作品を提示する。	・活動時間と内容を細かく区切り、集中して取組めるような授業の構成や声かけをしていく。 ・活動全体の時間や、本時はどこまで進めたらよいかなどの計画を黒板に残すことで、見通しをもって取組めるようにする。

（3）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・作りたいものに合わせて、道具や材料を選択し、どのようにするか工夫できるように指導をする。 ・糸鋸を使う際の準備・使い方・片付けを再度確認すると共に、一人で刃の付け替えをすることができるように指導する。 ・安全に活動できるよう場の設定を工夫する。	・児童の表したい表現に合うように、材料をより多く用意し、自由に使うことができるよう児童へ周知をしていく。 ・作りたいものをイメージ通りに表現できない児童には、教師がアイディアスケッチを確認し、材料やポイントのアドバイスをする。	・教師が活動全体の計画を分かりやすく提示するとともに、児童自身にも予定を立てるよう指導する。 ・導入や活動内容を工夫し題材への興味を高めるとともに、児童が集中して取り組める制作環境を整える。 ・児童のイメージがより膨らむように本やタブレットを活用して、作品のイメージをもたせるようにする。